



ききょう便り

平成25年 秋号（第35号）



ききょうデイサービスセンター岡谷にて 十五夜

笑 顔

評議員 倉品 延恵



甲子園で群馬県の代表校が、初出場初優勝を決めた日、大リーグのイチローが4000本安打を達成した事をニュースで知りました。まさに暑さを吹き飛ばす程の感動と力を貰った夏でした。気がつけばいつしか周囲の木々は、実をつけ葉を染めています。

ある日、出かけた先のショッピングモールで県内の老人福祉施設による写真展を見ました。私が、ききょうの里からの作品を探したのは言うまでもありません。

それは、利用者様がぶどうや団子を手に、こぼれんばかりの笑顔アップにしたものでした。“ホラ、見てよコレ！”と言う声まで聞こえてきそうでした。深く刻まれた顔のシワまでが、笑顔のせいかととても尊く美しく感じられました。この作品に私は、利用者様に対する施設での取り組み方や心遣いまで写されているようで嬉しかったです。施設を利用でき、個々に適した食を提供してもらい、介護のプロにお世話してもらえる事は幸せです。

沼田市でも、75歳以上の高齢者が8000人を越えました。民生委員でもある立場から、引きこもり、孤独死、生活苦など笑顔とは程遠い現実も見てきました。年々増えていく高齢の方々が笑顔で過ごす為には、たくさんの課題があり、その対策が必要とされています。

いろいろと厳しい現場ではありますが、施設の充実と共に、介護する側についても、少しでも笑顔になれるような組織作りや、職員処遇の向上が図れるようにしていきたいものです。

社会福祉法人 桔梗会

特別養護老人ホームききょうの里
ききょうの里短期入所生活介護事業所
ききょうデイサービスセンター
ききょうの里居宅介護支援事業所
沼田市在宅介護支援センターききょう

ききょうデイサービスセンター岡谷
ききょうヘルパーステーション

URL : <http://www.kikyou.or.jp>

〒 378-0002

群馬県沼田市横塚町 957 番地 2

TEL 0278 - 23 - 8831

FAX 0278 - 23 - 8832

〒 378-0061

群馬県沼田市岡谷町 687 番地

TEL 0278 - 23 - 8861

FAX 0278 - 23 - 8852

発行責任者 諏訪 光生

群馬県若年性認知症ケア・モデル事業に参加して

ききょうデイサービスセンター岡谷

この事業は、若年性認知症の人やその家族の支援に資する適切なサービスの研究・開発を行い、当該サービスを広く県内の事業所に普及させるとともに、本人の生活意欲の向上、家族の介護負担の軽減を図ることなどを目的に、県内の3箇所の介護事業所を対象にモデル的に実施されました。

実施期間は、昨年10月からの1年間で、ききょうデイサービスセンター岡谷では、比較的、利用者様の少ない日曜日にモデル事業を実施し、10月は1名、11月からは2名、今年の5月からは3名の方を受け入れて9月に終了しました。



陶芸作業



調理作業



園芸作業

この事業は64歳以下で発症し現在も64歳以下の方を対象とし、調理作業や陶芸、農作業や工作など個々の得意技に合わせたプログラムを実施しました。

まず、対象者の選考の段階では利根沼田の各居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)の皆様、そして、サービスの実施については地元の認知症医療疾患センターである内田病院様にご協力いただき、優秀なスタッフを派遣していただきました。また、陶芸教室に於いては、当法人の松井理事長に、ほぼ毎週ご協力いただきました。皆様のご協力により、モデル事業を無事に終了することができました。

このモデル事業を行って感じたことは、若年性認知症特有の症状や行動があるということ、また、ご本人は勿論ですが若年性認知症の方を支えているご家族への相談支援や経済的な支援が不可欠だということです。

ききょうデイサービスセンター岡谷では、今回の経験を生かし若年性認知症の方、及びご家族の支援をしていけるように努力していきます。

(相談員 高橋)



ご家族様より

輝く笑顔のデイサービス

ご家族 A 様

主人が若年性認知症になって10年が経ちました。過ぎてみればあっという間の時間でしたが真っ暗などん底から這い上がり、毎日を明るく過ごせるようになったのは、たくさんの皆さんの支えがあったからです。特に「ききょうデイサービスセンター岡谷」さんには開設当初からお世話になり今があります。

大人数は不得意とする主人が落ち着いて過ごせるようにと少人数で「南向きの居間」を使わせていただいているので、我が家にいるような安心感があるのでしょうか。ゆったりとした明るい施設の雰囲気は勿論ですが、家族のように接して下さるスタッフの皆さんの笑顔に主人ともども癒されております。「おはようございます」と玄関に迎えに来てくださる顔なじみのスタッフさんに「おーいくぞ」と楽しみにしている主人の声に、本当に信頼し安心しきっておまかせしています。介護は長いトンネルのように行き先がなかなか見えませんが、スタッフの皆さまに支えられ、長い介護でも笑顔で続けたいです。食事・排泄・入浴と要介護5の主人を世話していただくのはとても大変なことです、スタッフの皆さんが嫌な顔ひとつせず笑顔で対処して下さるので私自身も頑張れます。

また、2年前には娘の結婚披露宴に出られない主人を何とか写真だけでも残したいと、結婚式の前撮りに馴染みのスタッフの方がついてきて下さり、花嫁姿の娘と記念写真が撮れました。みんなが「満面の笑み」で本当に幸せな気持ちになりました。感謝・感謝の毎日です。主人が病気になってしまったことはとても悲しいことです、そのおかげで私自身も沢山のことを学ぶことが出来ました。特に、記憶はなくなるが感情は研ぎ澄まされるという認知症の特徴を身にしみて感じております。ですから、一日でも長く主人の笑顔が見られるように私もデイサービスのスタッフさんを見習って笑顔で頑張りたいです。

フォトアルバム(行事紹介)

季節の行事



デイ岡谷では、今年もお米を育て手作業で脱穀をしました。新米はおにぎりいただきます。



沼田東中学校の生徒さんにお手伝いいただき、りんご狩りに出かけました。もぎたては格別です。



ふれあい広場の小規模「デイ合同作品展」に出品しました。

真っ赤なりんごを手に満面の笑みの利用者様。「これが一番良さそうだよ！」



白熱した「パイ喰い競争」！簡単そうでなかなか取れないものです。



秋晴れの日、お散歩がてら近所のぶどう園に出かけ、おいしいぶどうをたくさん召し上がっていただきました。

慰問



ラフターヨガ(笑いヨガ)で心も体も温まりました。



敬老誕生会では、かわいい園児とのふれあいを楽しめました。

— 縁 —

10月になり朝晩の寒さがグッと感じられるようになりました。これからの季節は紅葉狩りやトレッキングなど自然のある場所へ出掛ける機会が増えるのではないのでしょうか？

私の秋の恒例行事といえば、姉が通っていた料理教室をきっかけに始まった、昭和村の農家で開催される農業体験に三姉妹で参加する事です。

春から始まる田植え、畑作り、稲刈り、収穫した芋の食べ比べや、採れたての野菜でご飯を作り畑の真ん中でランチをしたり、木材を使って小物を作ったり、色々な体験を通してたくさんの人との出会いがありました。

その日に初めて顔を合わせた、住んでいる場所も年齢もバラバラな人達が、ひとつの場所で同じ作業をしたり同じ物を食べるだけで、会話が弾み笑いあい打ち解けられる。何度も参加していくと知り合いになる。そんな感覚が好きで、毎年の恒例行事になりました。

始まりは小さな事でしたが、たくさんの縁はずっと続いていくものです。

仕事でも当てはまる事が多いのかな？と時々思います。ここで初めて出会い、一緒に過ごし同じ時間を共有したり食事をしながら、今まで知らなかった人の事を知る。一生続く縁。これからも大切にしていきたいです。

(ききょうの里介護職員 阿部)



私は、昨年から機能訓練業務に携わらせていただいています。

月に2回、沼田病院から理学療法士(P.T)の方に来所していただき、利用者様の個別機能訓練の指導をしていただいています。その関わりの中で、ある利用者様の新たな発見をすることができました。

その利用者様は、日常生活のほぼ全てが全介助の方です。P.T来所時、機能訓練指導をしていただいた時の事です。P.Tの介助でベッドサイドに端座位をとっていただきました。普段はなかなか端座位をとっていただく機会が無い利用者様ですが、しっかり座位保持をすることができました。そして、P.Tが手を放すと、ゆっくり後ろに倒れそうになった時の事です。「Sさん、倒れちゃうよー、倒れる倒れる」と声をかけると、後ろに倒れそうになった体を、自分の力で立て直すことができたのです。私は「えー、すごーい」と声を上げてしまいました。その利用者様に、このような機能が残っていたことにとっても驚いたからです。そして、機能訓練に関わらせていただいていることで、利用者様の新たな発見をすることができ、とてもうれしく思いました。



これからも利用者様と多くの関わりを持ち、残っている機能が少しでも維持できるよう、P.T指導を受けながら、日々実践していけるよう努力していきたいと思っています。

(機能訓練指導員 大山)

職員紹介

この職に就いて

ケアマネジャーの仕事は、直接利用者様のお手伝いをさせていただくのではなく、必要なサービスの調整やケアプランの作成など、在宅での生活を続けていくためのお手伝いをさせていただく仕事です。

そのためにも、できるだけ利用者様のお宅に訪問させていただき、直接ご本人や、ご家族様から、どういう暮らしをしていきたいか、これからどうしたいか等を聞かせてもらっています。電話などでも用は足りるということもあるかもしれませんが、その方のそばにいき、その方と直接話すことでしか見えてこない事も多くあります。

ケアマネジャーは事務作業もとても多い仕事ですが、事務所で書類を作って頭で考

えることだけでは利用者様の本当のお手伝いはできません。直接の介護をできるわけではありませんが、利用者様が歳をとったり、病気になったことでこれまでしてきた生活や、生き方をあきらめることなく、望む生活が送れるように利用者様のお手伝いをさせていただけるよう、これからもできるだけ利用者様のお宅に足を運びたいと思っています。



介護支援専門員
須藤 一男



口が錆びる — 食人家？

インド語に「家に食べられる」という表現があります。一人寝の寂しさや孤独感を「だれもいない、シーンと静まりかえっていて、家に食べられてしまいそうだ。」直訳すればそんな言い回しでした。

「ひとり暮らしで気ままだが好い」という方もいますが、ホンネは「寂しくて胸苦しくて、こないだの台風の時なんか動悸がして心臓が口から出てきそうになった…」と。また、多くの方が「一人していると口が錆びちゃうよ」と言います。実際、本当に錆びちゃいます。

喋らないでいると口の動きも唾液の働きも悪くなります。食事も進みません。あるものでいいやって、つい、でき合いの物と残り物で済みます。ノドもあまり最近では渴かない感じ。それに口を開けるのも億劫。いつもネバネバして、開けると糸を引いたりして。最近では飲み込みも悪くなったし、お茶にもむせたりで、熱も出ないのに肺炎になりました。

喋らないでいると寂しくなります。「寂しいよう」って言うと「寂しいよう」って壁のこだま。だから押し黙って亡くなったおじいさんと話をします。独り言が増えました。子供達は仕事だけでなく孫のことで精一杯。世の中はせわしない。テレビはうるさくてうんざりです。一生懸命、若い手の邪魔にならないように静かにしています。話をするのが億劫になりました。心の扉が錆びてしまいました。



パタカラ体操とかも最近では知られるようになってきました。それでも喋らないでいると口が錆びます。心も身体も錆び付いてしまう。今生この瞬間を共に生きる幸せーぺちやくちや、ぼそぼそ、ピーチクパーチク、喋りましょ。語り合いましょう。喋る角には福来る。(介護支援専門員 大平)

☆☆今後の予定☆☆

☆ききょうデイサービスセンター

- 11月 紅葉ドライブ・吹き割の滝(5~7日)
- 12月 餅つき忘年会(上旬)
クリスマス誕生会(下旬)
- 1月 新年会(上旬)



☆ききょうの里(従来型・ユニット型)

- 11月 紅葉ドライブ(13, 15, 16日・ユニット型)
茶話会(17日・従来型)
- 12月 そば打ち(中旬)
クリスマス忘年会(下旬)
- 1月 新年会(1日)

☆ききょうデイサービスセンター岡谷

- 11月 紅葉狩りドライブ(上旬)
- 12月 手作りおやつ・あんびん餅(上旬)
クリスマス忘年会(中旬)
- 1月 新年会・書き初め(上旬)



◇◇編集後記◇◇

秋も深まって参りました。まわりの木々も色づき初め、高い山では早くも初雪の便りが聞こえてきました。

芸術の秋…。ききょうの里では今年も利用者様の作品展を開催します。

11月24日～30日まで、8時30分～17時30分(最終日は16時)まで見学できます。日頃、コツコツと取り組まれ作り上げた作品はどれも力作ばかりです。是非、皆様お揃いでお出かけ下さい。

(総務 中山)

